

令和5年12月18日

三浦市議会議長 出口 眞琴 様

総務経済常任委員会  
委員長 草間 道治

## 令和5年度 総務経済常任委員会行政視察報告書

### 1. 視察日程

令和5年11月1日（水）・2日（木）

### 2. 視察先

広島県広島市 11月1日

広島県江田島市 11月2日

### 3. 視察参加者

総務経済常任委員会

委員長 草間 道治

副委員長 小林 直樹

委員 溝川 幸二

委員 寺田 一樹

委員 長島満理子

委員 千田 征志

議長 出口 眞琴

随 行 上田 貴大

### 4. 視察事項

◇ 広島県広島市

平和行政について（広島平和記念資料館について）

◇ 広島県江田島市

移住・定住施策について

【11月1日(水)】

(広島市HPより)

## ■ 広島県 広島市の概要

- ・面積 906.69 平方キロメートル
- ・人口 1,180,003人※令和5年9月30日現在
- ・世帯数 580,877世帯※ //
- ・産業別 第1次産業 (0.2%) 第2次産業 (29.2%)  
第3次産業 (70.6%)
- ・特産品 牡蠣 レモン もみじ饅頭
- ・市の花 キョウチクトウ
- ・市の木 クスノキ
- ・市制施行 明治22年4月1日

## ■ 位置・地勢

本市は広島県の西部に位置し、広島湾に面しています。市域内の平地の大部分は、太田川流域に形成された沖積平野からなります。

## ■ 広島平和記念資料館の概要

- ・本館 開館 1955年(昭和30年)8月24日  
2019年(平成31年)4月25日にリニューアルオープン
- ・東館 開館 1994年(平成6年)6月1日



(写真：広島平和記念資料館HPより)

# 広島県広島市

## 平和行政について（広島平和記念資料館について）

- 視察目的

2022年ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻が起き、ウクライナの各地でロシア軍とウクライナ軍の戦闘が続いている状況のなか、2023年5月にG7広島サミットが行われ、各国の要人が広島平和記念資料館を訪れるなど、核兵器が落とされた後の悲惨な姿が納められた広島平和記念資料館において「平和行政」を目的とした行政視察を行うこと。

- 視察先対応者

広島平和記念資料館 副館長 豆谷 利宏

- 視察訪問先

広島平和記念資料館

- 視察概要

- 平和行政について（広島平和記念資料館について）

（広島公式観光サイト「Dive!Hiroshima」より）

広島平和記念資料館は、原子爆弾による被害の実相を世界中の人々に伝え、ヒロシマの心である核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与することを目的に1955年に開館しました。

被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島市の被爆前後の歩みや核時代の状況などについて紹介しています。



■ 主な質疑応答

Q：原爆被害の記憶を未来の世代に伝えるための教育プログラムや取り組みはあるか。

A：小学生向けに低学年用と高学年用に分けた冊子の作成や、平和学習用のDVDやCD、ポスターや絵などの資料の無料貸出を行っている。また、事前・事後学習に役立つ書き込み式のワークブックを作成している。

Q：平和文化を推進するためのイベントやプロジェクトはあるか。

A：広島市では、11月を平和文化月間と定め、「平和」への思いを共有する「文化」が市民の日常生活に根付くよう、期間中に「平和への思いを共有につながる取組」を集中的に実施している。





## ■ 広島県 江田島市の概要

- ・面積 100.72 平方キロメートル
- ・人口 21,020人 ※令和5年10月1日現在
- ・世帯数 11,872世帯※ //
- ・産業別 第1次産業(6.7%) 第2次産業(25.9%)  
第3次産業(67.6%)
- ・市制施行 平成16年11月1日(旧安芸郡江田島町、旧佐伯郡能美町、  
旧佐伯郡沖美町、旧佐伯郡大柿町 4町が合併)
- ・市の花 キク
- ・市の木 サクラ
- ・市の魚 カキ

## ■ 位置・地勢

広島県南西の広島湾に浮ぶ江田島、能美島とその周辺に点在する島々で構成されています。

広島市からは海上約7.5キロメートル、呉市からは海上約6キロメートルの位置にあります。

早瀬大橋(昭和48年開通)と音戸大橋(昭和36年開通)を經由して本土と陸続きであり、半島地域として広島都市圏、呉都市圏の機能を分担できる位置関係にあります。

地形は、野登呂山、陀峯山、砲台山、古鷹山などで形成される山地や丘陵地が大半を占めます。まとまった平地部としては、海岸線の一部と、江田島町の中央、江田島町・大柿町の境界に接している江南・飛渡瀬、能美町の中町・鹿川、大柿町の大原の4地区に大別することができます。これらの地区に人口と都市機能が集積しています。



# 広島県江田島市

## 移住・定住施策について

### ● 視察目的

近年全国的に少子高齢化による人口減少が進んでいる。本市においても毎年人口が減少し高齢化が進んでいる状況である。現在、移住定住促進や空き家対策事業を進めている状況において、江田島市の「移住・定住施策」の先進的な取組について、これまでの取組の経緯や実施状況・成果を調査し、本市の移住・定住施策に生かすことを目的とした行政視察とすること。

### ● 視察先対応者

進 行：長原議会事務局次長

説 明：酒永光志議長（挨拶）

企画振興課 飴野課長

同 課 花野係長

### ● 視察訪問先

大柿市民センター

### ● 視察概要

#### ■ 移住・定住施策について

##### 1. 江田島市の移住・定住施策の概要について

令和3年2月に開設した市移住・定住ポータルサイト「hodohodo」による情報発信を行っています。移住者インタビューを多く掲載し、「人」にフォーカスしたサイト運営が意識されています。また、VRで空き家バンクに登録されている物件の内覧を可能にするなど工夫している。サイトの開設後、移住相談は大幅に増加しました。

##### 2. 江田島市移住交流拠点「フウド」について

人口減少抑制のため、市内外の人材の交流を図りつつ移住者や企業誘因の促進を図る目的で開設され、江田島市交流定住促進協議会からの委託で一般社団法人フウドが運営しています。移住相談への対応やコワーキングスペースとしての解放、さらには企業へのサテライトオフィスの誘致を行うなど、業務は多岐にわたります。

##### 3. 移住定住フェアへの参加

江田島市への移住・定住の魅力を伝えるため、広島県内や大阪で行われるフェアへ参加しました。

#### 4. 各種補助金の状況

新築物件の購入や子育て世帯の家賃への補助金制度が創設されました。また、移住を目的に江田島市を訪問し、活動した方に対して、交通費を補助する制度を創設し、移住・定住促進を図っています。

#### 5. 移住・定住につながった実績数

市が移住相談で対応したなかで移住につながった件数は、令和4年度は34世帯73人であり、空き家バンクの成約件数については34件となっています。いずれも過去最高値となっており、施策の効果が表れています。



#### ● 主な質疑応答

Q：空き家活用ディレクターに空き家バンクの運用等を全て任せているのか。

A：すべてを任せてはいない。現在の空き家活用ディレクターは、移住定住施策の推進を目的に、「地域おこし協力隊」として3年前に採用した。空き家に関する情報整理とともにアドバイスをしてもらっている。

Q：地域おこし協力隊の運用はどうなっているか。

A：採用期間は最長3年である。会計年度任用職員の制度を利用している。フリーミッションで採用してからどのようにしていくか考えていくのではなく、それぞれの任務をつけて採用している。

Q：コロナ禍において移住してきた方の中で二拠点生活をしている人はどの程度いるか。

A：二拠点生活数字では観測できていないが、感覚では増えてきていると思う。空き家バンクへの登録の相談でも別荘としての利用など増えている感覚がある。

Q：サテライトオフィスの誘致はどのような状況か。

A：これまでにIT企業3社がサテライトオフィスを設置され、従業員に移住して来てもらっている例がある。中には市民センターの空いている部屋を賃しているという例もある。また、移住ではないがワーケーションとしての利用のケースもある。

Q：年齢層や県内・県外、市内・市外の割合は。

A：空き家バンク利用の令和4年度の成約件数でみると、市内居住者は19件、市外も19件である。市外居住者のうち、県内が18件、県外が1件である。年齢層は、令和5年の4月から9月までの相談件数でみると、全数63件のうち、30代が7件、40代が10件、50代が19件、60代が10件、70代以上が11件、不明が6件となっている。

Q：市内の仕事はどのようなものがあるか。

A：第一次産業が主であり、生産量は減少傾向だが消費額は増えている。一つ理由としては、加工の工場が小学校の跡地に新しくでき、仕事の場は増えているという実感がある。

Q：移住者のアフターフォローのようなものはあるか。

A：江田島市移住交流拠点「フード」の事業として移住者交流デーというものが開催されており、移住者同士のコミュニティが作られている。業務の中で意識していること1つには、「人」にフォーカスすることである。市内在住の人や移住者のみならず、企業の誘致においても人のつながりがきっかけで話が進むことは多い。

Q：空き家バンクへの登録へ努力していることはあるか。

A：以前行った空き家調査の結果をもとに、空き家所有者にアンケートという形で空き家バンク登録の意向調査を行った。アンケートの実施からしばらく経ったあとでも市に相談があるなど反応があった。また、空き家相続登記の補助金について、空き家バンクへの登録を必要条件としていることも空き家バンク登録への一つの要因と考えられる。

Q：VR内覧など素晴らしい機能があるが、空き家バンクの運営にかかる維持費はいくらか。

A：維持費はかかっていない。職員がVR内覧の撮影も行っている。広島県内では初の事例である。

Q：「フード」の運営は市からの委託料で賄われているのか。

A：委託料だけで賄われているわけではなく、ワーケーション施設としての受け入れとしてのコンサルティング料なども入っている。





## 行政視察の成果について

---

### 広島市(広島平和記念資料館)・江田島市行政視察を終えて

総務経済常任委員長 草間 道治



今年は、11月に入っても全国的に夏日が続く異常気象であり視察に訪れ広島市も夏日が記録されるなど、快晴で天候に恵まれ視察を終えることが出来ました。

初日に訪れた広島平和記念資料館では、多くの観光バスが駐車され、たくさんの児童・生徒が修学旅行等で来ていました。

今年の5月に開催された広島サミットの影響で来場者が順調に増加していることや外国人の来場者がこれまでは2割から3割に増加するなど、当日もたくさんの外国人観光客が訪れていました。

今回、私たちの視察対応をしていただいた資料館副館長豆谷利宏様の丁寧な説明を頂いたこと大変感謝いたします。

最初に見学した東館では「導入展示」、「核兵器の危険性」、「広島のみち」の3つの展示ゾーンの説明をお聞きした後、渡り廊下からは照明が薄暗くなり、本館の「被爆の実相」では、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料が展示してあり、私は、イヤホンから流れる副館長の説明を聞きながら、まさしく原爆投下直後の広島でその悲惨な状況を見ているかのように感じました。

一番心に残った一枚の写真が「動く気力もない母親の胸にすがる幼児」の姿です。原爆による被害の特質や放射線による影響など、二度と核兵器の使用を起さなければならないことを強く感じた「平和行政」の視察が出来ました。

二日目の江田島市「移住・定住施策」の視察では、市移住・定住ポータルサイト「hodohodo」による情報発信による、空き家バンク物件をVRで内覧可能して充実した物件を見ていただき興味をもって頂くことから取り組んでいることや「地域おこし協力隊」として人材を育てる取組を行っていること、その地域おこし協力隊として活動し卒業してから、一般社団法人「フウド」を設立し江田島市移住交流拠点施設として移住相談への対応など様々な取組と実績を上げている調査が出来たことは、有意義な視察となりました。

視察対応をしていただきました江田島市酒永議長、議会事務局・企画振興課職員の皆様ありがとうございました。

## 総務経済常任委員会 行政視察 報告書

副委員長 小林 直樹

### 1. 広島県広島市 〈視察事項〉 平和行政について（広島平和記念資料館について）

#### （1）広島平和記念資料館

1945年8月6日午前8時15分、広島に一発の原子爆弾が投下され、多くの人々の命が奪われた。

広島平和記念資料館本館では、当時の画像や被爆者の描いた絵、関係する資料を展示している。そして、被爆の実相を①8月6日の惨状 ②放射線による被害 ③魂の叫び ④生きる という4つのタイトルに分けて、広島に何が起こったのかを伝えている。



#### （2）核兵器の廃絶

一日も早く、この世の中から核兵器を廃絶することが必要である。

そのためにも、唯一の被爆国である日本が、国連の核兵器禁止条約を批准することが求められている。

#### （3）今後、参考にすべき事項

広島市は、被爆の実相を後世に伝えています。

この三浦市も、1954年3月1日にアメリカがマーシャル諸島ビキニ環礁で行った水爆実験などにより、多くのマグロ船が被災をしました。来年は、その「ビキニ事件」から70周年になります。

平和について考えるためにも「ビキニ事件」を風化させないことが重要です。

### 2. 広島県江田島市 〈視察事項〉 移住定住施策について

#### （1）移住定住促進のための補助金制度

- ①定住促進事業補助金制度で、定住を目的として家を新築または購入した場合、最大30万円を助成している。
- ②定住促進子育て世帯家賃補助金制度で、定住を目的として賃貸住宅を借りた場合、家賃の月額1万円を12ヶ月助成している。
- ③定住促進交通費補助金制度で、移住を目的に訪問して活動した場合、交通費を最大2万円助成している。

#### （2）地域おこし協力隊

- ①「地域おこし協力隊」という会計年度任用職員を3年間採用している。
- ②協力隊を経験した人の中から「空き家活用ディレクター」や「一般社団法人フウド代表理事」になる方が現れ、移住定住をサポートしている。

③ 昨年の移住世帯数は34世帯で、移住人数は73人だった。

(3) 今後、参考にすべき事項

三浦市も人口減少が大きな問題になっています。少しでも歯止めをかける意味でも、「地域おこし協力隊」のような職員採用を検討することも必要だと思えます。

画像は「原爆ドーム」です。



---

## 総務経済常任委員会 行政視察報告

溝川 幸二

① 視察目的：広島市 平和行政について

広島市にある平和記念公園は、原爆死没者の慰霊と世界恒久平和を祈念して1955年に完成し、その形を変えずに、修復や改修を行い現在まで平和の象徴として、後世に原爆の記憶を語り続けています。

公園内には、原爆ドーム、広島平和記念資料館、平和の願いを込めて設置された数々のモニュメント、被爆したアオギリなどがあります。

資料館を案内していただき、非常に過酷な原爆の凄まじさを目の当たりにして、二度と起こしてはいけないことであると実感しました。

三浦市では「三浦市核兵器廃絶平和都市宣言」の理念に基づいて平和行政の推進に取り組んでおりますので、広島の平和教育プログラムや市民啓発活動を参考に、平和教育イベントや講座を開催することで、市民に戦争の悲惨さと平和の大切さを伝える取り組みを行うことをつづける必要があると感じました。

また、広島の平和公園や博物館を参考に、三浦市内に平和記念行事などを開催





し、戦争の被害を伝える機会として活用することで、市民の意識を高め、他の自治体や団体と連携し、平和行政に関する情報などを共有することで、三浦市内での平和への取り組みを強化することが必要であるとの思いが強くなりました。

平和行政の最後に、戦争の恐ろしさと平和の尊さを改めて考えさせられる機会でした。これからも原爆に関する貴重な資料を守り、平和への道を歩んでいくために、自分自身ができることを考え、行動していきたいと強く感じました。

## ② 江田島市 移住定住政策について

江田島市は平成12年には32000人いましたが、年間500人ほど減少しており、現在は21000人程とのことで、令和27年には人口10000人になってしまうとの予想から、およそ10年前より本格的な移住定住政策に取り組んだとのことです。

移住定住政策の拠点となる「フウド」という移住交流拠点施設があり、元々は地域おこし協力隊の一員であった方が自ら運営し、移住相談を担っているということです。

この「フウド」ではシェアキッチン、交流スペース、有償のスペースなどが併設されており、地域の方や移住希望者などの交流イベントも数多く開催されています。

移住に対する相談、空き家バンクの活用方法には目を見張るものがあり、ポータルサイト上に数多く掲載されている空き家の情報には、ホームページ上でVR（仮想現実）を利用して内見できる仕組みを採用しており、三浦市でも取り入れることができるシステムであると感じました。

地域も違いますから、同じようには行きませんが、今後の指針となるような先進的な取り組みを三浦市でも取り入れ、多くの方が三浦市に目を向けていただき、移住定住へつながるような取り組みを実践していきたいと思えます。

---

## 総務経済常任委員会行政視察報告

寺田 一樹



### 1. 平和行政について

1945年8月6日午前8時15分。広島に一発の原子爆弾が投下されました。

原爆は上空600メートルで爆発し、様々な被害を引き起こします。

「熱線による被害」

原爆が爆発した時の爆発点の温度は数百万度となり、空中に発生した火球は、1秒後には直径400メートルを超える大きさになりました。この火球から四方に



出された熱線は、爆発0.2秒後から3秒後までの間、地上に強い影響を与え、爆心地周辺の地表面の温度は3000度から4000度に達しました。鉄が溶ける温度が約1500度であることを考えるといかに高温かわかります。爆心地から約1.2キロメートル以内でこの熱線の直射を受けた人は、体の内部組織にまで大きな損傷を受け、ほとんどの人が即死か数日のうちに亡くなりました。

#### 「爆風による被害」

原爆の爆発の瞬間、街を爆風が襲いました。爆心地から半径2キロメートルまでの地域では、ほとんどの木造の建物は壊され、鉄筋コンクリート造の建物は、崩壊を免れた場合でも、窓や家具などが吹き飛ばされ、その後内部は全て焼き尽くされるなどの大きな被害を出しました。爆風によって吹き飛ばされ、即死した人、けがをした人、倒れた建物の下敷きになって圧死した人やそのまま焼け死んだ人がたくさんいました。

#### 「放射線による被害」

原爆が爆発して1分以内に「初期放射線」が大量に放出されました。特に爆心地から1キロメートル以内で直接放射線を受けた人は致命的な影響を受け、ほとんど亡くなりました。さらにそのあとも、「残留放射線」が地上に残りました。このため直接被爆しなかった人でも救援・救護活動や家族を探すために爆心地近くに行き放射線を受け、それが原因で病気になったり亡くなったりする人も出ました。また、爆発により巻き上げられたチリやススが、黒い雨となって降りました。雨の中には放射性物質が含まれており、この地域で井戸水を飲んでいていた人の多くは、その後3か月にもわたって下痢をするなど、健康被害も生じました。

広島平和記念資料館には、その当時の貴重な資料が多数展示されており、それらの展示物を見学させてもらうことで原爆の悲惨さを改めて感じさせられました。展示されている「被爆時に着用していた子供の衣服」を見たときにはこみあげてくるものがありました。広島平和記念資料館を訪れ、改めて核兵器廃絶への思いが湧いてきました。また、館内では大勢の外国人も見学していきまして、平和への思いは万国共通であると感じることもできました。

「核兵器廃絶平和都市宣言」をした三浦市の市民として、今後も平和の大切さやありがたさ、命の尊さなどを後世に伝えられるよう努めていきたいと強く思わせる視察となりました。

## 2. 移住定住施策について

江田島市の移住定住施策についてお話を伺ってまいりました。

江田島市では、使われなくなった公共施設をセルフリノベーションして、江田島市移住交流拠点施設「フウド」を開設させました。「フウド」は、島の外にいる人と島の内にいる人が出会い、混じりあう場。人と人の交流が生まれ、化学反応が起きる場所としています。また、定住促進事業補助金や定住促進交通費補助金、空

き家購入補助金、空き家修繕補助金といった具合に数々の補助メニューを用意するなど、三浦市では行われていないような取り組みも多数行われていました。

一通り説明を受けて、空き家バンクの取り組みが活発に行われていることが気になりました。江田島市では令和4年度に空き家バンク成約件数が過去最高値を記録し、さらに令和5年度には、空き家バンクへの登録を希望する方が過去最高になっているとのことです。本市でも空き家バンクの取り組みは行われておりますが、登録される物件はわずかです。何が違うのでしょうか。江田島市では、空き家全戸調査を実施し、活用できる空き家の所有者に対し積極的に呼びかけを行っていました。三浦市ではどうなっているのかいま一度確認する必要があると感じました。また、江田島市では空き家バンク物件をVRで内覧できるようにしています。部屋の中が360度見渡せるようになっており、それによってより分かりやすく物件の情報が伝わるようになっていきます。運用にあたってコスト的なものはさほどかからないということだったので、本市の空き家バンク物件においてもVRで内覧ができるように取り組んでいくことが一つ必要だと感じました。

地方部では、人口減少がより深刻な問題になっていますので、移住・定住施策からも危機感が伝わってきます。他市の取り組みも参考にしながら、三浦市としてもより一層の移住・定住施策の推進を図っていかねばならないと感じる視察となりました。

---

---

## 総務経済常任委員会視察報告

長島 満理子

### 広島平和記念資料館視察

1945年8月6日、広島に原爆が投下された日のことが実物の遺品や資料、写真など悲惨だった状況がわかる展示に心が痛みました。報道などで見聞きするだけだったので、実際に資料館で説明を受け、当時の様子がどれだけ悲惨だったか、現在は本当に平和慣れしていると感じました。

当時の爆破の様子、一瞬で全てなくなってしまったことを伝えていかねばいけないと感じるばかりです。

修学旅行で多くの児童、学生が見学していました。彼らはどう感じ、学んだのか訊ねてみたくもなりました。

資料館に展示されていた、伸一ちゃんの三輪車や禎子さんの折り鶴など、再度見直したくなりました。



8月になると報道される終戦記念日ですが、今後はしっかりと耳を傾けていかないといけないと感じるばかりです。

## 広島県江田島市「移住定住施策」について

江田島市では、空き家バンク、移住ポータルサイト「hodohodo」、移住交流拠点施設「フウド」などを行政と民間がうまく連携を取りながら取り組んでいました。中でも目に留まったのは、地域おこし協力隊の取組で、空き家バンク、交流拠点の運営は、移住を考えている人にとって、かゆいところに手が届く存在であると思います。

三浦市では進んでいない空き家バンクですが、江田島市の空き家調査、申請、登録では、補助金交付の部署と物件調査・登録の部署の連携が図られており、また不動産業者も入り物件紹介をしています。また、空き家活用ディレクターも加わり、物件紹介にもVRを取り入れ、移住希望の方たちにわかりやすく物件を紹介しています。このわかりやすさが、相談件数や移住に繋がっていくものと考えられます。さらに、補助制度もあり相談件数の増加、そして定住に繋がっていくのだと思いました。

また、地域おこし協力隊の活動から移住交流拠点施設「フウド」の設立によっての拠点づくりにも注目したいところです。コロナ禍でテレワークが増加し、田舎暮らしが注目され、まさに「フウド」がその役割を担っています。市が事務局を担っている江田島市交流定住推進協議会が（一社）フウドに委託し移住交流拠点施設を運営しています。そこでは、移住相談、空き家バンク物件の内覧、コワーキングスペース、シェアキッチン、情報発信さらには、サテライトオフィスの誘致などが行われています。

ここに来れば、市内の様々なことがわかる空間になっているのだと思います。また、物件の情報など不動産業者だけではできないことも連携して出来るのが移住希望者にとっても大きな魅力のひとつだと思います。

移住者は何しろ情報が欲しいわけですから、このような交流拠点施設の活用は参考になります。

二拠点生活を送る人も多いと伺いましたが、この地に住んでみたいと思ってもらえるような冊子作成などのプロモーション作りもうまく行われていると感じました。

移住・定住促進施策について、三浦市にも取り入れていきたい内容も多く、今後提案していきたいと思います。

## 総務経済常任委員会行政視察報告

千田 征志

### 1. 平和行政・広島平和記念資料館見学について

\*原爆が広島にされたのは、1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分、人類史上初めての原子爆弾が広島市中心部の上空約600メートルでさく裂し、広島市は壊滅的な被害を受け、死者は推計で約14万人、負傷者は約7万9千人にのぼるとされています。強烈な爆風と熱線により、広島市内の建物の9割が壊滅的な被害を受けました。

原爆の特徴は、通常の爆弾では発生しない放射線を大量に放出し、それによって人体に深刻な障害を及ぼした

ことです。放射線による障害は、爆心地からの距離やさえぎる物の有無によって、その程度が大きく異なっています。爆発後1分以内に放射された初期放射線によって、爆心地から約1km以内にいた人は、致命的な影響を受け、その多くは数日のうちに死亡しました。また、外傷が全くなく無傷と思われた人々が、被爆後月日が経過してから発病し、死亡した例も多くあります。

さらに原爆は、爆発後、広島に長時間にわたって残留放射線を地上に残しました。このため、家族、親戚や同僚などを捜して、また救護活動のために被爆後に市内を訪れた人々の中には、直接被爆した人と同じように発病や死亡する人もいました。また、爆発後、放射性物質を含んだチリやススなどが地表から巻き上げられ黒煙となり、空気中の水滴と混じり、黒い雨となって降りました。この雨の中には放射性物質が含まれており、この地域で井戸水を飲んでいていた人の多くは、その後3か月にもわたって下痢をしたということです。

原爆による放射線は、被爆直後の急性障害（発熱、吐き気、下痢など）だけでなく、その後も長期にわたってさまざまな障害を引き起こし、被爆者の健康を現在もなお脅かし続けています。これを後障害と呼びます。火傷が治った跡が盛り上がるケロイドは、1946年（昭和21年）から翌年を頂点に現れ、痛みやかゆみを伴い、まわりからの視線や言葉により精神的な苦痛を受けることもありました。また被爆は、胎児にもいろいろな影響を及ぼしました。死産する例もありましたが、無事に生まれてきた子どもも、乳児期を過ぎても他の子どもに比べると死亡率が高くなっています。中には頭囲が著しく小さく、小頭症と呼ばれ、知的障害を伴う場合もありました。さらに、被爆から年月を経て、白血病やがんによって亡くなる人が増えていきました。白血病の増加は被爆して2年から3年後に始まり、7年から8年後に頂点に達しました。一方、がんが発生するまでの潜伏期は長く、被爆後5年から





10年頃に増加が始まったのではないかと考えられています。放射線が年月を経て引き起こす影響については、未だ十分に解明されておらず、調査や研究が現在も続けられています。

(まとめ) 現代の国際情勢においても、人間による人間どうしの紛争や戦争が繰り返し続いており、言葉では戦争反対が各国で叫ばれているが、自国の有益、指導者の偏った思想、人種差別、領土問題、宗教弾圧など、人間のエゴによる身勝手な行動でどれだけの尊い命がこの地球から消えているのか、自分も含め、世界の人々が認識するべきである。

## 2. 江田島市の移定住施策について

\* 江田島市は、広島市の南、広島湾の中心に位置し、江田島・能美島とその周辺に点在する島々で構成されています。海上距離で広島市から7.5km、呉市からは6kmの位置にあり、都市部から比較的近い位置にありながら自然も豊かで、田舎暮らしを楽しめます。

また、全国有数の生産量を誇る牡蠣をはじめとした水産物、農産物の産地でもあり、近年では、全国的なアウトドアイベントSEA TO SUMMITも開催し、サイクリングやシーカヤックなどアウトドアの島としても注目を集めている魅力に溢れた島です。生活交通としては、江田島市の7つの港が広島市・呉市とフェリー・高速船で繋がっており、通勤・通学も可能で、呉市とは早瀬大橋により陸路でも繋がっていてとても便利だと感じました。

人口:21,020人(令和5年10月1日現在)

### (ア) ほどほど便利な江田島市

- 島だけど、コンビニもスーパーも「ほどほど」にあります。
- 島だけど、陸路でアクセス可能、船の便も「ほどほど」にあります。
- 島だけど、意外に大きく、生活するのに「ほどほど」の面積です。
- 島だけど、人口約21,000人の「ほどほど」な密度です。

### (イ) 空き家バンクについて

- 江田島市外からの移住や定住を希望される方にスムーズに物件を紹介できるように、江田島市の空き家バンク制度を運営しています。市は、契約に関する仲介行為は行なっておらず各物件を担当する不動産業者と交渉します。
- 不動産の性質上、案内の前に契約が成約する場合がありますので、ご了承ください。
- 「交渉中！」の物件については、成約に向けて話が進んでいるため、物件案内や仲介不動産業者の紹介はできない。

### (ウ) 移住・定住実績数

令和4年度 移住世帯数34世帯、移住人数73人、空き家バンク成約件数34件  
どれも過去最高値！

(まとめ) 江田島市の移住定住施策について感じたことは、官民一体で楽しみながら、町おこしをしている状況の中でAIやSNSなどのツールを使って、目に見える島の暮らしを発信し、実績を重ねる施策に感動しました。本市の移住・定住施策(みうら暮らし三浦市移住ポータルサイト)におきましても、財政事情が困難ではありますが、具体的な人口目標を掲げ、三浦の魅力発信を行うと共に、官民一体で今後の新たな移住・定住促進に取り組み、「空き家バンク」「リフォーム補助」等、人口増加に繋がる支援制度に期待をいたします。

---

---

## 総務経済常任委員会 行政視察報告書

議長 出口 眞琴

### 1日目 広島県広島市

広島市は、広島県の西部、安芸地方にある市です。広島県の県庁所在地であり、中国・四国地方最多の人口を有する市で「国際平和文化都市」を目指しています。

広島市の平和行政(広島平和記念資料館)について報告いたします。



### 【平和行政】



広島市に到着し先ずは「広島平和記念資料館」を訪れました。資料館では豆谷利宏副館長の案内で本館の各展示ブースを8月6日の惨状から順次説明を受けながら見学をしていきました。8月6日8時15分原爆投下、投下目標は市内中心部にあるT形の相生橋でそこから約300m離れた病院の真上で爆発しました。火傷と負傷にあえ

ぐ被爆者や銀行の開店前に石段に座っていた人が被爆し、その際に原爆の熱線がその周りの石段の表面を白く焼いて人の影の部分が残った「人影の石」の現物が展示されていました。また、2歳の時に被爆し、10年後に白血病を発病して亡くなった佐々木禎子さんと、原爆で犠牲となった全ての子どもたちに捧げるために建てられた碑には平和を願う人々が作った沢山の折り鶴が飾られていました。



原爆の子の像

広島復興に向けて国は広島町を作り直すために特別な法律を作り平和記念都市として再生されました。平和記念資料館を見学し過去の出来事を学ぶだけでなく、現在、世界では戦争、紛争、飢餓、環境問題など世界中で様々な形で人々の存続が脅かされています。特に日本は平和に慣れてしまっている様に感じます。今回の平和行政の視察では平和である幸せと大切さを改めて感じました。

## 2日目 広島県江田島市

江田島市は、は広島県西部の瀬戸内海島嶼部に位置し、土地面積100,72km<sup>2</sup>、人口は21,020人の中国地方で最も人口が少ない市です。

議員定数は16名です。

江田島市の移住定住政策について報告いたします。

### 【移住定住政策】

今回の視察では江田島市へは広島港から船に乗り高田・中町まで約30分の乗船です。船からは広島特産の牡蠣棚が所狭しに活けられている様子を見ることができ、さすが日本一の牡蠣の生産地であります。港に到着後車で約20分、視察会場の大柿市民センターに到着しました。



江田島市の移住定住施策は市移住・定住ポータルサイト「hodohodo」の情報発信で移住者インタビューを多くし、「人」にフォーカスした事で開設後、移住相談は大幅に増加しました。

空き家バンクの取り組みは定住促進子育て世帯家賃補助金・定住促進事業補助金・定住促進交通費補助金・空き家購入補助金・空き家修繕補助金等を活用しています。また、江田島市移住交流拠点施設「フード」を立ち上げ後藤峻氏が一般社団法人フード代表理事となり江田島市交流定住促進協議会から委託を受け施設運営を行っています。「フード」では移住相談・空き家内覧案内・交流イベント企画・移住定住促進業務などを行っており移住相談件数・空き家バンク物件内覧案内数は着実に増えております。

去年の移住定住につながった実績数も過去最高値となりました。



フェリー・高速船ターミナル



牡蠣棚

島での雇用についての質問をしたところ、江田島市では船や車で近隣の広島市・呉市へ通勤している人が多いことがわかりました。江田島市までの船での移動は非日常的な遊覧気分のように感じましたが、江田島市民にとっては船の通勤が日常であることに驚きました。

キャッチコピーの「ほどほどに田舎、ほどほど便利な江田島市」は島だけどコンビニ・スーパーも「ほどほど」あり、島だけど陸路でアクセス可能、船便も「ほどほど」あり、島だけど意外に大きく生活するのに「ほどほど」の面積、島だけど人口約21,000人の「ほどほど」の密度なんてほのぼののしている感じですね。